

【男子決勝リーグ】 福島南高校 対 清陵情報高校

第1ピリオド

福島南はマンツーマンディフェンスでスタートし、開始1分で#17が得点し口火を切る。対する清陵情報はオールコート2・2・1でスタートし、すかさず#6のゴール下のシュートで得点する。福島南は、堅いディフェンスからリバウンドにからみ、ファーストブレイクから#4のレイアップシュート、#7のジャンプシュートなどで着実に得点を重ねていく。流れを作りたい清陵情報は#7がドライブで1対1を仕掛けるも苦しいシュートになり、第1ピリオド18-7と福南がリードで終える。

第2ピリオド

開始早々、福島南#6の力強い1対1で得点し、その後も#18の高さを生かした得点やファーストブレイクで得点を重ね、終了間際には#6がブザーと同時にバスケットカウントで得点し後半へ良い形をつなげた。追う、清陵情報は、スローインから#10の得点でスタート。スクリーンを使ったオフェンスで立て直しを図り#5が3Pを決め、残り6分で22-12と10点差まで詰めたが、福島南の厳しいディフェンスの前に思うように得点が伸びず、33-21と福島南のリードで前半終了。

第3ピリオド

出だしが重要となる第3ピリオド。開始早々互いに得点して行くが、福島南は#4や#18のバスケットカウント、ゴール下での得点でリードを徐々に広げていく。対する清陵情報はターンオーバーが重なりリズムをなかなかつかめず、次第に得点が止まり残り4分でたまたまタイムアウト。流れを立て直しにかかるも、ファウルがかさみ積極的なディフェンスができず55-31と福島南のリードで第3ピリオド終了。

第4ピリオド

オールコートでプレッシャーをかけた清陵情報は#8の連続3Pなどで追い上げを図るも、福島南の攻守が緩まることはなく、最後まで粘り強いディフェンスで一つ一つひたむきにプレーした福南が68-47で勝利し全勝で最終戦へとつなげた。

戦評：半澤 早苗

【男子決勝リーグ】 福島南高校 対 福島商業高校

第1ピリオド

お互いマンツーマンディフェンスでスタートし、開始早々、福島南#4のドライブで得点したのを皮切りに、ハードなディフェンスでチャンスを作り#18のファーストブレイクからレイアップ、#7のバスケットカウントで流れをつかみ一気に点差をつけた。一方、福島商は#9の長身を生かした1対1や#4のドライブからファウルを誘いフリースローを沈めるも、福島南の厳しいディフェンスに対して思うように攻めることができず、福島南が39-11とリードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド

リズムを作りたい福島商は、#8・#9の1対1から得点を狙おうとするも、福島南の堅いディフェンスを前に無得点の時間が続いた。一方、福島南は第1ピリオド同様、ファーストブレイクからの得点を着実に決め、一気に突き放し、67-18で福島南がリードを広げ前半終了。

第3ピリオド

福島南は前半とメンバーを代えてスタート。#16の3Pや、#18の1対1を中心に果敢にリングに向かい、攻撃が緩まることはない。対する福島商は、スクリーンを使ったオフエンで#6が得点すると、#4の3Pやバスケットカウントなどで得点し徐々にリズムをつかみ、ファーストブレイクからの速い展開で#10が3Pを決めるなど、巻き返しをはかるも、82-42と福島南のリードは変わらず第3ピリオド終了。

第4ピリオド

スターティングメンバーに戻り、ディフェンスが緩まることのない福島南はディフェンスリバウンドやスティールから立て続けに速攻を決め、さらにリードを広げる。たまたら福島商はタイムアウトをとり#6や#7が積極的にシュートに向かうも、終始ハードなチームディフェンスを貫き、ボールに対する執着心の勝る福島南が103-58で優勝を飾った。

戦評：半澤 早苗

平成27年度福島県高等学校新人バスケットボール大会 《男子決勝リーグ》

日程 平成28年1月10日(日)

場所 あいづ総合体育館

試合 Aコート 第4試合 13:30～

少年男子決勝リーグ 戦評 福島南高校 対 福島東稜高校

両チーム、マンツーマンディフェンスから入る。東稜高校は、1年生のオスマン君がケガのためベンチスタートとなる。南高校は、序盤から堅い守りを継続しつつ得点を量産する。第1クォーター途中から東稜高校は、ハーフコートの1-3-1のゾーンディフェンスに変えて、チームのリズムを掴もうとするが、南高校の堅守速攻により、前半を54対15福島南高校リードで折り返す。第3・第4クォーター、東稜高校は1-3-1のゾーンディフェンスを継続するが、南高校のテンポの良い力強いオフェンスを止めることが出来ず、90対33で福島南高校が勝利した。

文責 星 博之(会津地区強化委員長)

男子決勝リーグ

清陵情報-福島商業

両チームマンツーマンディフェンスで始まる。

第1Q、福商は#6のインサイドを中心に、#4#5のドライブ、#7の3Pで得点を重ねる。残り6分20秒で清陵タイムアウト、10-1福商リード。清陵は激しいディフェンスから、#4#5が得点しリズムを立て直す。第1Q終了、16-26福商リード。

第2Q、両チーム激しいディフェンスで互いに主導権を握らせない。清陵は、代わって入った#14の速攻からのバスケットボールカウントで流れを掴む。清陵が点差を縮め、32-39福商リードで第2Q終了。

第3Q、清陵は#7の速攻、#5の3Pで追い上げ、残り5分#16のジャンプシュートが決まり43-41清陵が初めてリードを奪う。対する福商は#6のインサイドで得点するが、アウトサイドのシュートが嫌われ思うように得点できない。55-52清陵が逆転し、第3Q終了。

第4Q、清陵はテンポのよいパス回しから得点する。福商はインサイドが守られると#7の連続3Pで点差を広げさせない。残り4分39秒、61-62。清陵#16の1on1、福商#5のドライブと互いに譲らない。残り19秒67-68、清陵はファウルゲームを仕掛けるも、福商#5フリースローを落ち着いて2本沈め、67-70福島商業が接戦を制した。

新人県大会 男子 決勝リーグ 福島商業 対 福島東稜

福島商業対福島東稜の試合は福島東稜ボールでスタートした。福島東稜は3-2のゾーンディフェンスを仕掛けたが、福島商業7番の3Pシュートなどのアウトサイドシュートでリードを許してしまう。開始3分、5分と福島東稜がタイムアウトをとり、ハーフコートのマンツーマンディフェンスに切り替えたが、福島商業のアウトサイドシュートを抑えられず24-12の福島商業リードで1ピリオドが終了した。

2ピリオド、福島商業はアウトサイドを中心に、福島東稜はドライブからのインサイドを中心に攻める。序盤は福島東稜が追い上げる形となったが、途中福島東稜のテクニカルファウルなどがあり後半にはまた点差を広げられ、43-30で終了した。

3ピリオド、点差を詰めようと福島東稜が厳しいディフェンスを仕掛けたが、チームファウルが重なってしまい一時スターティングメンバーをベンチに下げる。その間に福島商業が攻め59-40とさらに点差が広がり終了した。

途中20点差開く場面もあったが、最後は福島東稜が2-2-1のプレスを仕掛けて追い上げていくも77-64で福島商業が終始リードを保ち終了した。

清陵情報-福島東稜

第1Q、東稜マンツーマン、清陵ゾーンで始まる。清陵は#4がバランスよくパスを回し、#6のインサイド、#5の3Pなどで得点していく。対する東稜も#4の1on1を中心に得点を重ねる。互いになかなか流れを掴めないまま第1Q終了、23-21清陵リード。

第2Q、清陵はディフェンスをマンツーマンに切り替え、流れを変えようと試みる。一時8点のリードを奪うも、清陵#6のファウルトラブルなどにより、東稜にオフェンスリバウンドを何度も許し、再び点差が縮まる。37-36清陵リードで前半終了。

第3Q立ち上がり、清陵は素早いパス回しから#5#6の連続バスケットボールカウントで38-47とリードを奪う。追う展開となった東稜は、#4がドライブをねじ込む強さを見せ、チームを鼓舞する。さらに、ベンチメンバーの活躍もあり、58-53で第3Q終了。

第4Q、ここまで度々、点差を広げられては追いつく粘りを見せていた東稜の足が止まり始める。シュートチャンスは幾度となく作るも決め切ることができない。逆に清陵は、司令塔#4がアシストを連発、#5#6が速攻からの得点を量産、東稜を突き放す。最後まで走り抜いた清陵情報が81-65で勝利。